



山梨県 子どもの心の診療ネットワーク事業
令和7年度 子どもの心に関する講演会

スマホはどこまで 脳を壊すか

－不登校支援のヒントを探る－



参加費無料

会場

山梨県立文学館 講堂
(山梨県甲府市貢川1-5-35)

講師

日時

2025年12月19日(金)
19:00～20:30 (18:30開場)

さかき こうへい
榎 浩平 先生

東北大学応用認知神経科学センター助教授

対象

教育・福祉・医療関係機関、
子どもにかかわる支援者、
テーマに关心のある一般の方

申込
方法

下記のQRコードにアクセスの上、
必要事項を入力してお申し込みください



主催：山梨県

受託者：地方独立行政法人山梨県立病院機構
山梨県立北病院

児童思春期は子どもから大人になるため大きく変化する時期で、心や身体のバランスを崩しやすい時期もあります。子どもたちは自分の心身の不調を言葉で訴えることが難しく、異変に気付くには時間がかかります。そのため大人が子どものサインに気付き、適切に対応していくことで、子どもの心の成長を助けることができます。

近年の社会のデジタル化は目を見張るものがあります。特にスマートフォンは私達の生活には不可欠な存在となり、大人はもちろん子ども達の多くが所持する社会となりました。しかし、一方ではデジタル化の進歩による心身への影響、「スマホ依存」といった社会問題も生じており、子ども達への影響が懸念されています。スマートフォンをはじめデジタル化社会の利点と同時にリスクとどのように活用していくべきか今一度考える必要があると感じております。

今年度の子どもの心に関する講演会では、東北大学応用認知神経科学センター助教授榎浩平先生をお招きし、身近な存在であるスマートフォンの与える危険性と活用の仕方について学びを深める機会を持ちたいと思います。

講師略歴

1989年、千葉県生まれ。東北大学応用認知神経科学センター助教。博士(医学)。東北大学理学部卒業。同大学大学院医学系研究科へ進学し、ニンテンドーDS用ソフト「脳トレ」シリーズの監修者として知られる川島隆太教授に師事。2019年、博士課程修了。日本学術振興会特別研究員(PD)、東北大学加齢医学研究所助教を経て、2024年4月東北大学応用認知神経科学センター助教となり、現在に至る。人間の「生きる力」を育てる脳科学的な教育法の開発を目指している。現在は「スマホ依存」をテーマに、人類と科学技術が健康的に共生する方法を模索している。

宮城県仙台市教育委員会 「学習意欲」の科学的研究に関するプロジェクト委員、千葉県松戸市教育委員会 アドバイザー、宮城県白石市教育委員会 幼保小架け橋プログラム開発会議 委員、広島県福山市教育委員会 教育アドバイザー、文部科学省・「早寝早起き朝ごはん」全国協議会 有識者会議委員などを務める。

【著書】

『スマホはどこまで脳を壊すか』朝日新聞出版

【共著】

『最新脳科学でついに出た結論「本の読み方」で学力は決まる』青春出版社

『子どもたちに大切なことを脳科学が明かしました』くもん出版

駐車場のご案内

当日は混雑が予想されます。

お越しの際は**第3駐車場**のご利用、
乗り合わせのご協力を願いいたします。



お問い合わせ:山梨県立北病院

社会生活支援部 武田

(TEL 0551-22-1621)